

製本のススメ

Vol. 76

新緑の春ですが、今年は電力の問題もあり、浮かれてばかりはいられません。近所の小学校の窓に、こんなポスターが貼られていました。【頑張れニッポン がんばれわたし達】いいですねえ 私達の踏ん張りが、明日への一歩です。

今回は**綴じ方選びのポイント**の話し（1回目）

無線・中綴・上製・伝票など製本様式には、それぞれに**風格**があります。作る冊子の内容や用途によって加工方法はおよそ決まってくるので、それぞれの特性や束の厚みによって起こる問題点を交えて進めていきましょう。

中 綴 じ

薄い束（ページ数の少ない）冊子に適しており、加工コストも低くまた見開きが良いので、主にカタログ・雑誌に多く用いられ**簡易的な使い切りの用途向け**です。紙目には大きく左右されることは有りませんが（糊を使わない為）これは、中綴に限らず冊子を作る上で基本的な事柄ですので、しっかりと覚えておきましょう。

適合ページ数は8～60頁程度・厚みとしては5ミリ程度（冊子背の厚み）が目安です

注意点は、**頁が増えるほど、本文ページが徐々に小口側にせり出してくる事です**。用紙の厚み分だけ、小口側へ本文がせり出してくるので文字切れのトラブルが出易くまた**厚みが増すとステッチ（針金）の長さが足りなくなり、締りが悪くなる事も多くなります**。特にコート紙等の固い紙は、綴じられない（針金が通らない）事も起こります。また太い針金では少々 不体裁になりかねません。

コストについては、全体的に安価ですが60頁以上は必ずしも安価とは限りませんので、企画デザイン段階で、加工会社へ相談してみるのが良いでしょう。

余談となりますが、加工会社や加工機械により版の面付けに若干の決まりがあります。薄物専門（又は厚物専門）のような製本会社もありますので、発注する製本会社へは、事前に面付けの確認をしておく事をお勧めします。



Tea break

気温38度と言うと猛暑ですが、お風呂が38度では冷たいですね。これは皮膚表面の温度が関係しています。水は熱伝導率が高く体温を素早く奪います。その為お風呂では皮膚温度が下がりますが、空気は伝導率が小さく体温を奪う速度が遅いのです。暑い冷たいという感覚は外部温度でなく、皮膚温度で決まるそうなので、同じ38度でも、空気のほうが暑く感じるのです。

今年は汗かいて団扇で扇ぐ！究極の節電ですね。

by (株) 井関製本